

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101927		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協グループホームそまじ		
所在地	山口県下関市豊北町大字田耕2790番地		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町受理日	平成26年4月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成25年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は平成24年3月に建設された新築単独型で、農村地域の環境の良い場所にあります。居間から見える景色は、夏は田んぼの緑、秋には一面黄金色と、春夏秋冬を肌で感じながら過ごすことができます。一日の時間はゆっくりと流れ、入所されている方々は大きなストレスを感じる事なく過されています。地域の方の御支援により、ホームが地域に受け入れられてから十年目に入りました。単独型の施設ですが、地域の方との連携を重視しているため、緊急時には、施設の周りの方々がすぐに駆けつけてくれます。2ヶ月に一度開催の運営推進会議では、20名近い委員の方が参加され、活発な意見交換ができています。ホームの前のガードレールは自治会長さんのご尽力により、取り付ける事ができました。おかげさまで、利用者の方は安全に散歩をすることができています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

収穫した旬の野菜や新鮮な魚などの食材を使って利用者の好みを聞いて献立をたてられ、三食とも事業所で調理されています。面会に来られた家族も加わって一緒に和やかに食事されたり、誕生日には出前のお寿司をとるなど、食事を楽しむことができるように支援されています。運営推進会議のメンバーと消防防災学習館に視察研修に行かれる他、緊急連絡網を整備され、災害時の避難誘導、消火、利用者の安全確保等の役割分担について具体的な話し合いをされるなど、災害時の地域との協力体制を築いておられます。事業所の夏まつりは運営推進会議のメンバーや地域の人の協力を得て開催され、子どもから大人まで多くの地域住民が参加され利用者と交流されています。職員は、利用者一人一人の思いや意向の把握につとめておられ、実家の墓参りをしたいという利用者の希望を介護計画に反映され、定期的な墓参りの支援をされる他、大衆演劇を観たいという利用者の希望から、利用者全員で観劇に行かれるなど希望に応える支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で馴染みある言葉に囲まれてゆつくりと過ごします」という理念のもと、利用者の方が穏やかに生活ができるよう支援している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は月1回のケア会議で理念を確認し、共有して、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事等に参加したり、小学校や中学校の生徒が訪問される事もある。また、施設の行事には地域の方にもご案内し参加して頂いている。特に夏祭りは準備の段階より、地域の方の協力のもと、一緒に行っている。	地域の祭りやどんど焼きに利用者と職員が一緒に参加している。事業所の夏祭りを運営推進会議メンバーや地域の人との協力を得て開催し、地域の人や子供たちの参加があり利用者と交流している。事業所だよりを郵便局や公民館、小学校、農協などに配布している。ボランティアの来訪があり、月1回の茶会を楽しんでいる他、地域のふれあいサロンと一緒に事業所でいぎの葉団子づくりをして、利用者は家族や地域人と楽しんでいる。小学生や中学生の体験学習や大学生の実習の受け入れをしている。近所の人々が事業所の畑の草取りや土づくりをしている他、野菜や花、魚の差し入れがあるなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設をオープンにし、いつでも見学者を受け入れている。また、広報活動として定期的に施設の新聞を発行し、地域に情報を発信している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果、指摘を受けた事をケア会議にて職員間で話し合い、具体的な改善に向け取り組んでいる。	管理者が評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布し、記入してもらい管理者がまとめたものを、全員で検討している。モニタリングの期間を明記する他、ケース記録に介護計画書のサービス内容を分かりやすく記録するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では毎回施設の現状を資料を添えて報告し、それに対して意見交換を行っている。また、運営推進会議での意見等をケア会議にて職員に伝え、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、事業所の現状報告、行事報告、事故、ヒヤリハット報告、外部評価の取り組みについての報告をして、意見交換している。緊急連絡網(地域版)の作成、抜き打ちの避難訓練の実施等について話し合い、運営推進会議のメンバーが消防防災学習館へ視察研修に行き、地震や火災、水害時に備えて学ぶなどサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者に運営推進会議のご案内をし参加して頂き、施設の現状を伝え、課題等に対して意見や助言をいただいている。	市担当課とは運営推進会議以外に事故報告や事業所の現状報告、介護保険の更新申請時などで出向いて相談して助言を得たり、情報交換をするなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、FAXなどで相談して助言を得たり、情報交換をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、施設内は施錠はせず、利用者は自由に出入りできるようにし、事故が起きないように見守り声掛けを行っている。また、身体拘束についての内部研修会を行い、理解を深め身体拘束をしないケアを実践できるよう取り組んでいる。	内部研修で学び、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関に施錠をしないで、声かけの工夫をしたり、一緒に出かけている。スピーチロックについては管理者が指導し、職員間でも話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会に参加したり、内部研修会にて学ぶ機会を持ち、虐待についての理解を深め見過ごされることがないように、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修会にて制度について学ぶ機会を持っている。現在この制度を利用している方はおられませんが、必要性が生じた場合には活用できるよう支援します。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に、十分な説明を行っている。定期的に開催している家族会や日頃の面会時に不安や疑問点を伺い、一つ一つ丁寧に説明を行い、理解、納得を得られるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時にご家族の方が意見や要望を出しやすい雰囲気作りを行い、出された意見や要望についてはすぐに検討し、サービスに反映するよう努めている。施設内で解決できないものについては、運営側に報告、相談している。	相談、苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員を明示し、契約時に利用者や家族に説明している。運営推進会議時、年4回の家族会、行事や食事会、面会時、電話、事業所だよりや運営推進会議の議事録の送付時などで、意見や要望を聞く機会を設けているが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員が管理者に意見や提案を出せる環境にある。内容によっては管理者より運営側に伝え、検討し反映している。また、年に1度アンケートをとって、職員の意見や提案を自由に言える機会を設けている。	ミーティングや月1回のケア会議で職員の意見や提案を聞いている他、日常の業務の中でも話しやすい雰囲気をつくり、聞いている。法人のアンケートを年1回実施している。休憩時間や勤務体制についての意見を反映している	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度アンケートをとり、職員の意見や希望等を個別に聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に外部研修会に参加できる機会を設けている。内容は復命により職員全員が共有している。また、月に1回内部研修会を開催し、内容、担当を決め、職員全員が順番で行うようにしている。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。受講後は復命し、全職員で共有している。年1回のリスクマネジメント研修や新人研修を法人で実施している。内部研修(身体拘束やプライバシー保護、事故防止、認知症、倫理など)は年間計画を作成し、月1回実施している。山口県在宅老所・グループホーム協会の研修にも参加している。管理者や先輩職員の指導で、働きながら、介護技術や知識を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回各事業所の代表者会議が行われ、意見交換を行っている。内容については、ケア会議にて管理者より職員に報告している。同業者との研修会、親睦会にて交流する機会があり、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の前に、ご家族からの聞き取り、ケアマネジャーからの情報提供書をもとに、ケア会議にて細かく情報の共有を図っている。入所後はご本人とのコミュニケーションを密に取り、安心して過ごせるような関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際に、ご家族からの要望等を伺っている。また、ご家族の方が話しやすい雰囲気作り、傾聴に努め、安心して頂ける関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を、職員全員が共有し対応するよう努めている。他のサービス利用も必要であれば、ご家族と話し合い利用する事もできます。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日を通して、生活リハビリに努めている。その方のできる事を見極めて、職員と一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、外泊は自由にできるようになっている。家族会や外出支援等にも積極的に参加して頂き、関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の面会も自由に行っている。入所前に利用していた施設への訪問や行きつけの温泉、美容院の利用も自由に行っている。	親戚の人や知人、友人の来訪、行きつけの理美容院や馴染みの訪問美容院の利用、墓参り、年賀状や電話の支援の他、家族の協力を得ての外出や外泊、一日旅行、結婚式への出席、通夜への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察、把握し、日々の生活の中で関わり合いがもてる支援に努めている。トラブルが発生した場合には、さりげなく職員が入り支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も施設等への面会を行い馴染みの関係を保ち、安心して頂いている。必要に応じて、ご家族からの相談や意見も聞きいれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、ご本人の希望や意向を引き出し把握に努めている。職員はケア会議や日々の業務の中で話し合い、検討し本人本位のサービスに努めている。	入居時のアセスメントで利用前のケアマネジャーや本人、家族から情報を得ている他、日々の関わりの中での利用者の言動や暮らし方の希望などをケース記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。実家の墓参りがしたいという利用者の希望を、家族と相談をして、介護計画に反映させて定期的に支援したり、大衆演劇を見たいという利用者の希望から、利用者全員で観劇に行くなど、利用者の思いや希望に応える支援をしている。困難な場合は職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人やご家族から話を聞いたり、ケアマネジャーからの情報提供書をもとに、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を把握し、サービスを提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のできる事、できない事、したい事を把握して、負担にならない程度の生活リハビリを行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、必要な関係者と意見交換を行い、身体状況に応じた介護計画書を作成している。	計画作成担当者と利用者の担当職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、利用者や家族の希望、主治医や看護師の意見等を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリングを実施し、見直しをしている他、状況や要望に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の確認、口頭や申し送り帳での引き継ぎを行い、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の面会時、食事が必要であれば対応している。また、ご家族も自由に宿泊ができるように対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会への出席や、地域の祭りへの参加等ご本人の生活が豊かで楽しいものになるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に施設医の説明をし、理解して頂いた上で主治医を変更して頂いている。月に1回主治医の往診があり、急変時は連絡、相談している。状況に応じては別の医療機関を受診して頂いている。	本人や家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診がある他、訪問看護師による健康チェックをして、かかりつけ医にバイタル等の健康状況の報告をしている。他科受診は、家族の協力を得て受診の支援をしている。かかりつけ医と看護師が連携して緊急時の対応をしているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状によっては主治医の判断のもと、訪問看護による治療が行われている。医師と訪問看護師との連携を密にとる事によって、施設内での治療が安心して受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急車での入院時は職員が付き添い、医師や看護師に状況の説明を行っている。退院の際には、家族やMSWとの連携を密にし、スムーズに退院が出来るように支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に基本的にはターミナルケアは行わない事をご家族に説明し、納得して頂いている。重度化した場合は事業所でできる事を十分に説明し、ご家族、主治医、訪問看護等と相談しながら、支援をしている。	契約時に重度化した場合の事業所が出来る対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、訪問看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移転も含めて方針を共有し、支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	些細な事でもヒヤリハットに記入し、日々の申し送りやケア会議にて報告を行い、事故防止に努めている。内部研修会にて応急手当について学び、避難訓練の際には、消防士からの指導も受けている。	ヒヤリハット、事故報告書にその日の職員で話し合い、対応策を記録している。翌朝の申し送り時に説明して、月1回のケア会議で検討し、確認してケアプランに反映するなど一人ひとりの事故防止に努めている。年1回の救急救命法の受講やAEDの使用訓練を受講している他、嚔下、骨折、心肺蘇生の研修を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員の方や地域の方と一緒に、消防署職員の指導のもと、年に2回避難訓練を行っている。自動火災通報システム、スプリンクラーが設置しており、緊急連絡網も地域版と施設版を作成し、早期に対応できるようにしている。	昼夜間を想定した火災時避難訓練や災害時避難訓練を年2回実施している。運営推進会議メンバーと職員と一緒に消防防災学習館を視察するなど、災害対策を学んでいる。緊急連絡網の地域版を作成し、災害時の地域住民との役割分担について話し合うなど、地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を損ねない言葉かけや対応を心がけている。また、日頃から職員間で気づいた事は注意し合い、内部研修会にて、尊厳やプライバシー保護について学んでいる。	人格の尊重とプライバシーの確保について内部研修で学び、職員は理解して言葉かけや対応をしている。不適切な対応については管理者が指導する他、職員間で話し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話を大切にし、ご本人が思いや希望を表したり、自己決定ができるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切にして、自由に一日を過ごして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の方に慣れ親しんだ衣類をご用意して頂き、季節に合った清潔な衣服を着て頂いている。また、行きつけの美容院や理髪店に行かれたり、定期的な美容師の訪問により散髪支援も行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら、季節の食材を使用した献立をたて、居間のホワイトボードに表記している。野菜の皮むきや盛り付け、配膳等できる方は職員と一緒にやっている。	収穫した旬の野菜や差し入れの野菜、新鮮な魚などを使い、利用者の好みを聞いて献立を立てて、三食とも事業所で調理している。利用者は職員と一緒に調理の準備や盛り付け、配膳、食器洗い、片付けをし、面会の家族や職員と一緒に食事をしている。誕生日食、季節の行事食(御節、節句など)、出前、外食などの他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の確認を行い、偏りや不足が生じないように支援している。一人ひとりの状態や力に合わせた形状や食事量にし、必要に応じて器具の工夫も行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。自立していない人については、声掛けして介助している。義歯については夜間洗浄剤にて洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、その方の排泄パターンを把握して、声掛け誘導を行いトイレにて排泄ができ、快適に過ごせるよう支援している。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や室内歩行、軽体操等の運動を行ったり、食事に野菜や寒天等の食物繊維を取りいれたり便秘にならないよう工夫している。状況に応じては、医師の指示のもと、緩下剤の調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの意向を確認しながら入浴を行っているが、利用者の安全が保てる曜日、時間帯で実施している。体調の観察を行い、安全で安心した入浴ができるよう心がけている。	希望すれば毎日入浴でき、14時から16時30分の時間帯に一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめる支援をしている。柚子湯や好みに合わせて入浴剤を楽しめるようにしている。利用者の状態などに合わせてシャワー浴、清拭、足浴などの支援をしている。入浴したくない人には声かけの工夫や職員を交代するなどの工夫をして対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を職員間の申し送りにより確認し、やや不眠の方には、午睡を勧めて休息していただいている。空調の管理、照明の工夫等、安眠できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から処方された薬剤については、詳細な説明書が添付されている。処方毎に、個別の記録ファイルに綴じ職員が目を通せるようにしている。服薬後の状況についても、変化があれば主治医に報告している。		
50	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にアセスメントをして出来る事出来ないことを見極め、日常生活全般に、役割をもって生活をしていただいている。包丁の使える方については刺身等も造っていただいている。	生け花、貼り絵、テレビ体操、歌を唄う、カラオケ、モップかけ、拭き掃除、下ごしらえ、配膳、片付け、洗濯物たたみ、洗濯物干し、いぎの薬団子づくり、季節の行事(雛祭り、敬老会、クリスマス会、餅つきなど)、地域の夏まつり、温泉、大衆演劇の観劇など、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームの周囲に散歩コースがあり、天気の良い日には、散歩や外気浴を楽しんでいる。家族と自由に外出をする方も居られ、生活に楽しみがもてるように支援している。	花見(桜)、苺狩り、みかん狩り、梨狩り、温泉、大衆演劇の観劇、地域の夏まつり、ドライブ、お寺まいり、買い物、散歩、外気浴などの他、家族の協力を得ての外出、外泊、外食、墓参り、一日旅行、結婚式への出席、通夜への出席など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて、お金を所持し、使えるように支援している。現在は1名、お金を所持しておられる。他の方については、預かり金としてホームで管理している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その方の能力に応じて、希望される時は自らが電話できるように支援している。手紙やはがきについても、代筆をしたり、投函の代行を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱をまねくような刺激がないようにできるだけ配慮している。(特に、光や温度調整)玄関や居間には季節の花を飾るようにしている。又、居間には季節を感じられるようなものを掲示している。	居間兼食堂の窓から四季折々に広がる田園風景を眺めながら過ごすことができ、ソファや食堂の椅子に座って、台所の調理の様子をながめたり、職員と話しをするなど、利用者それぞれの居場所となっている。玄関には、季節の花が飾っており、上り口などは低めで、温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、それぞれの個性に合わせた場所の調整を行っている。一日を通してゆったりと過ごすことができるように細やかな工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、自宅で使用されていた馴染みのある生活用品を持参して頂き、環境に大きな変化がないようにしている。皆さん落ち着いて過ごすことができている。	ベッド、テレビ、整理タンス、衣装かけ、三段棚、スタンド、時計、本、ジグソーパズルの作品、ぬいぐるみ、干支の人形、雑誌、日めくりなど使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よくすごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。移動の際必要な所には手すりがとりつけてあり、安全に移動する事ができている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 下関市社協グループホーム そまじ

作成日： 平成 26年 4月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を観ん付けるための応急手当 や初期対応の定期的な訓練の継続	全ての職員に対し、不慮の事故や救急の際 に対応できる具体的な方法を身につけるよ うにしたい。	毎月行うケア会議の中で担当を決めた上で救 急法の時間を取り、応急手当ての方法を繰り 返し訓練するようにしたい。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。